

コロナ対策のための

リハーサル運営ガイドライン その2 【リハーサル会場の人数制限への対応策】

a.o. 2020/7/5

中央区交響楽団 運営委員会

1. 前提となる考え方(人数制限によって楽団員全員が入られない場合について)

全員が会場に入れないから、即座に分奏にするのではなく、Tutti ができる可能性があるのであれば(いつまた非常事態宣言で活動制限されるか分からないことから)、できるだけ Tutti でのリハーサルを実施する方向ですすめる。

- ☆ 事前調査(出欠登録システム)において、人数制限オーバーだった場合でも、出席予定者の突発的な欠席の結果、制限オーバー状態が解消されることも考えられる
 - ⇒オーバーとなるかどうかは 実際は当日集まってみないと分からない
 - ⇒なので、事前調査結果で弦分奏や管分奏にしてしまうのはもったいない

- ☆ ほんの数名オーバーで分奏にしてしまうのももったいない

↓

一部の人がリハーサルに参加できない状況(人数制限をして)でも、Tutti とする方策を考えていこう！！

↓ ↓ ↓

↓ ↓ ↓

- ① 出欠は事前にきちんと把握しておく。(出欠登録システムのこれまで以上の活用)
- ② 「欠席」登録厳守
 - <以上、既存ガイドラインで規定済み>
 - そのうえで、
- ③ リハーサル会場の人数制限については 当日集まった人数により、次の対応を実施する

2. 対応策

当日、集まった人数により、以下にしたがって Tutti を実施する

- A 5名以下の範囲でリハーサル参加者（会場に入る人数）を制限することで Tutti が実現できるなら Tutti とする
- B 6名以上の制限が必要な場合は、特殊 Tutti とする（後述）

- A 5名以下の制限でクリアできる場合は、弦楽器メンバーで人員オーバー分を吸収する。
管楽器の代奏者を立てることで人員オーバーとなる場合は、代奏は立てない。
 - 50分ごとの入れ替え制 オーバー分の人数はホール外待機とする。待機者は、弦メンバーでくじ引きで決定
 - 休憩10分間に次の50分の待機者を弦メンバーでくじ引きにより決定（当日既に待機者となった人はくじ引きには参加しない）
 - コンサートマスターと弦トップはくじ引き対象外とする。

- B 6名以上の制限が必要な場合は 特殊 Tutti

→ 特殊 Tutti とは できるだけ Tutti に近い形にしたいとの思いからのアイディア
：管楽器が木管・金管で別れることで／別れることになっても、弦・管の合同リハーサルの機会をより多くするやりかた

↓ ↓ ↓

50分ごとの入れ替え制 で

[弦セクション+木管セクション+打楽器]

[弦セクション+金管セクション+打楽器]

を交互に実施。その場合に、なお制限人数をオーバーする場合には、弦楽器内でのくじ引きで待機者を決定する。

【以上、要約すると】

当日、実際に集まってみないと 制限人数を超えるかわからない
なので、できる限り Tutti の機会を増やすこととする

オーバー人数が 5名までなら 弦楽器の方に交代で我慢をお願いします。

オーバー人数が 5名でムリなら 第一に管楽器の方に我慢をお願いします、それでも足
りなければ、足りない分の我慢を弦楽器にお願いします。

☆多なお、曲目によってオーバー人数が変わるので、曲目ごとに 検討・決定。

☆多その他、現場で発生する種々の問題については、楽団長・運営委員長の裁定によ
り対応を実施する。

【見学者・エキストラさん対応】

事前人数把握の結果、既に人数制限オーバーまたは、エキストラさんあるいは見学者
さんがきていただくことでオーバーする日程については、
まず、見学者にはおいでいただかない（次の日程での見学をお願いします）ことを基本と
する。エキストラさんについては各パートでの事情を考慮し適宜の対応とする。

以上